

日本女子大学協働事業（講義）の実施について

1 趣旨

日本女子大学と板橋区教育委員会との協定、および日本女子大学家政学部の依頼に基づき、同大学の新設科目である「社会連携を学ぶ A（子ども）」のゲストスピーカーとして、講義を行ったので報告する。

2 実施日時

令和3年12月18日（土） 10:50～12:30

3 場所

日本女子大学（目白キャンパス 百年館・206号室）

4 参加数

28名（当該科目の受講者） ※ 半数以上が児童学科1年生

5 講義内容（概要）

○『絵本の世界の発信 ～幅広い図書館の活動をめざして～』

1 イン트로ダクション

～講演者紹介、図書館・絵本館の紹介～

2 社会教育としての図書館について

～連携の位置づけ～

3 地域と連携した図書館・絵本館の取組み

～事例研究～ 地域・学校・国際交流

4 施策の体系について

図書館が担う社会教育の意義を解説し、すべての世代の幅広い対象と協働する事例を紹介しその過程や特徴などを解説した。また、途中で「これからの子どもをめぐる社会連携の将来について」提起し、学生の思考力や実践力につながる話題をおり交ぜた。最後に自治体の政策を調査するにあたって、施策体系と個別事業との関係を解説した。

【紹介した図書館事例】

- ・読書感想文コンクール／図書館を使った調べる学習コンクール
- ・不登校生徒への取組
- ・幅広い主体との連携として

大学連携（日本女子大の事例）、東京子ども図書館、地元の商店街、近隣の教育施設（教育科学館）、地元の相撲部屋（常盤山部屋）

【紹介した絵本館事例】

- ・「絵本のまち板橋」の発信拠点
- ・ボローニャギャラリーの紹介
- ・ボローニャブックフェア in いたばし
- ・絵本づくりの取組
- ・いたばし国際絵本翻訳大賞の取組

6 受講者の感想

(1) 質問項目と回答 (抜粋)

① 今回講義の感想や学んだことは何か

「絵本は生涯学習の素材となり、絵本は一生の宝物となること」

「次世代への継承を考えた絵本文化の形成が必要であること」

「(社会連携にあっては)自分自身が発信拠点となって推進を行う必要がある」

「社会連携では、一点だけを見つめるのではなく、そこから派生させて違う側面から物事を見ることも重要だと感じた」

「生涯学習のモデルから、家庭教育と学校教育の境界線が分かれていたが、実際は曖昧なのかもしれないと考えた」

「学びという視点をもてば、日常は学びに溢れ、社会は学び合いの場であるのかもしれないとも考えた」

(取組について)

「コンクールなどを定期的に行い区民の人に主体的に動いてもらうような取り組み (が重要と感じた)」

「子ども自ら読書するように仕向けることは、保育者にとってとても難しい課題。読書通帳は達成感、書き留めること、競争心を利用できるなど自発的な読書につながれると思った」

「図書館を居場所の一つにしてもらうといった社会的な課題に対する取り組み (は大切だと思った)」(不登校生徒の職場体験事業に関する感想多数)

② あなたにとっての絵本の一番の魅力は何か。

「幅広い年代の人が楽しめる点が魅力だと思う」

「文字がなくても絵から読み取り想像力を鍛えることができ、日本だけでなく世界中の人とも同じ作品でつながることができる」

「絵本はちょっと疲れた大人が読むのにちょうどよいと思う」

「喜怒哀楽を感じることや、心の変化を知ることによって感情が豊かになる」

③ 子どもと絵本をつなぐ図書館の取り組みに興味はあるか、また参加してみたいか。

「1人でも多くの子に絵本に触れてもらう機会を設けることに関わりたい」

「機会があれば図書館の取り組みにサポートとして参加したい」

(その他、多くの受講生が関心を示した)

※②、③は中央図書館から依頼した質問。

(2) 提出内訳

20名(3年生 4名、1年生 16名)

7 その他

日本女子大学とは、9月末に家政学部教授と4年生の学生による「親子読み聞かせ講座」を協働して開催した。

今後も、今回のような機会から相互の事業紹介や課題共有を図りながら、さらに連携を深めていく。